YEARBOOK
O-smile

私たちは地球のドクター
OSUMI
株式会社オオスミ

2020-2021年
第9号

変化

CHANGING

次世代への幕開け

「当たり前」、「いつも通り」から「変わる」ことは、
時に期待でわくわくしたり、時に不安でドキドキしたりしませんか。
2020年は特に変わることを求められた年になりました。
そんな今だからこそ、「変化」を明るく捉え、前に進みたいものです。
私たちが暮らす環境、社会が今より少しでもよくなるようにオオスミは変化し続けています。

今回のテーマは
“変化”

株式会社 オオスミ
代表取締役 大角 武志

MESSAGE

Osumi way

私たちが目指す道

平素より大変お世話になっております。また、イヤーブックをお手に取って頂き誠にありがとうございます。毎度のご説明にはなりますが、本誌『O-smile』は、私たち株式会社オオスミの仕事や、社員・メンバーたちの思いを載せたペーパーです。ホームページやカタログ・パンフレットでは十分にお伝えし切れない内容を誌面に載せていきたいと思い製作しております。今回で第9号目の発行となりますが、内容については立候補してくれた社員たちが一生懸命考えて編集してくれた内容となっております。是非お時間のある時にお目通し頂けましたら幸いに存じます。

さて、今回のテーマは『変化』です。激変している昨今、さらに『変化』を取り上げるのは優しいようで実は難しいと思いました。しかし、会社を経営するということは、変化をどのように捉え、どのように対処していくかそのものだと思い、少し綴らせて頂きます。

世の中は変化し続けていますが、その変化こそイノベーションの機会だということを学んだことがあります。経営学者ピーター・ドラッカー氏はイノベーションを起こすときに必要な機会は7つあると言います。①予期せぬ成功や失敗を見つけること②ギャップを探すこと③ニーズを見つけること④産業構造の変化を知ること⑤人口構造の変化に着目すること⑥認識の変化をとらえること、そして⑦新しい知識を活用すること、だそうです。

他社との差別化は予期せぬところに

オオスミの中でもこの1番目の“予期せぬ成功・失敗を見つけること”については、社員一人ひとりにアンテナを立ててもらうよう日頃から話をしています。「なぜ、そんなに遠くからわざわざ当社に?」「なぜ、私たちのような中小企業に?」「なぜ、お近くの同業他社様ではなく私どもに?」などなど様々な疑問が沸き起こる中、理由を聞いてみると「なるほど!」と気づくことがあるのです。私たち自身が認識していなかった強みや、当たり前だと思っていたことが差別化につながっていたことなど様々です。予期せぬ成功は、私たちが理想と思ってないところで見つかることが多く、ともすると見過ごされたり、表に出てこなかったりもします。しかし、しっかりと情報をキャッチすることで、宝の山になることも多いのです。

オオスミの歴史は、工業薬品の販売から始まりました。その後、お客様からご指導を頂きながら水質汚濁、大気汚染、土壌汚染対策、アスベスト対策、PCB関連、エネルギー診断などの新しい仕事の機会を得ました。「私たちは水の分析はしますが、土壌汚染については…」などと断ることなく、どうしたら可能になるか?を社員と一緒に、またお客様と一緒になって考えてきたからこそ今のような商品・サービス群を扱えるようになったとも言えます。

変化を受け入れ壁を乗り越える

世の中が激変しているからこそ、オオスミは今の延長線上ではなく、予期しなかったヒントを頂きながら新しいサービスやサービス向上に繋がる対応を考えて行きたいと思っています。変化を受け入れ、安定感に安心することなく、これからも様々な壁を乗り越えていきます。今後ともどうぞ皆様の環境面での懐刀のように利用していただけましたら幸いに存じます。

左上の写真は、今年からレジ袋有料化になったこともあり製品の余り布で作られたメッセージ入りの大きな買い物バッグと一緒に撮った写真。もう一枚は、最近愛用している、廃タイヤから変化したサンダルの写真です。

Overseas

海外事業

ベトナム ダナン

現地法人Osumi Vietnam Co., Ltd.を設立!

オオスミベトナム 社長 米田 善治

2020年10月1日、ベトナムのダナン市に現地法人オオスミベトナム（Osumi Vietnam Co., Ltd. 当社100%出資）を設立いたしました。前身のオオスミダナン駐在員事務所は会社登記ではないため、商内に関する契約締結や金銭授受等の行為ができませんでした。今後は独立した現地法人を設立し、商売を自己完結させ利益を出せる体制を構築することで早期の自立を目指します。独立採算ですので、現地法人の黒字化に全力を挙げる所存です。

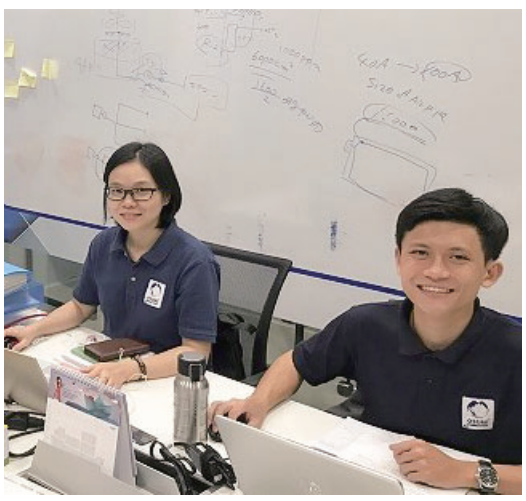
お客様の利益向上に貢献するために

どうすれば安定した商売を構築できるのか、ここ1年半試行錯誤を続けて来ました。代表取締役の大角も現地を何度も視察し、マーケティング調査を重ねました。その結果、ベトナム中部地区（ダナン市、クワンガイ省、クワンナム省）に進出している日系製造業の皆様を主な対象にさせていただき、公平で高品質の省エネ診断のご提供、それに基づいた対策のご提案と実施、対策実施前後でのモニタリングと効果の見える化等のトータルサービスを誠実にご提供し、お客様の利益の向上に貢献させていただきたいと考えています。「日本の高品質のソリューションをベトナムのコストで提供する」を基本コンセプトにし貢献して行こうと考えています。

その為に、オオスミが培ってきた技術力・ノウハウを、新会社のローカルスタッフ（現在2名）に指導・移転することが最重要と考え推進しています。また、工場内設備の省エネソリューションを充実させるためには地場の優秀な協力会社との協働が必須となります。新会社は日系製造業者様への診断・対策提案を通し対策工事案件を発掘し、地場協力会社の機能と連携させ、顧客にご満足いただけるソリューションを提供していく計画です。すでに数社の日系製造業者様と省エネに関するコンサルタント契約を締結させていただき、省エネの対策提案・工事を地場協力会社と展開しております。

ベトナムでは電力不足が慢性化し、政府は電力大口使用者に対し省エネの実現を義務化しています。新会社はそのニーズを捉え適切なソリューションを提供できるように技術力、現場力の向上に取り組んで行きます。非常に難易度は高いと思いますがチャレンジを続けていく決意です。

皆様からのご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。



どんな状況でも もっと楽しみたいから、走り続ける！

世界各地の大会が延期や中止に

オリンピック・パラリンピックの延期が発表されたのは3月30日。パラリンピック代表選考期間中のことでした。私は、3月以降、代表選考期間終了の6月8日までに選考となる海外大会を3大会出場する予定で準備をしていました。しかし、代表選考大会であるボストンマラソンは3月13日に、ロンドンマラソンは3月16日に延期が発表されていましたので、どのような基準で代表を選考するのだろうかという不安の中での延期発表でした。

オリンピック・パラリンピック延期の発表の後、次々と大会中止の発表がありました。

私には、代表選考大会の延期や中止により、どの大会にピークを合わせればよいか、代表選考はどうなるのか、というメンタル面での影響がありました。

延期になって思うこと

個人的には凄く助かりました。事実、昨年は良い結果が出せず苦しんでいました。

期間が一年延びることで、しっかりとコンディションを整え、代表選考大会にチャレンジできることは、私にとってラッキーとしか言いようがありません。

また、今まで多い時には毎月大会に出場していたので、1〜2か月サイクルで、大会（評価）、目標設定（問題点等に対する新たな目標設定）、練習ということを行っていたのですが、しばらく大会がないので、もうすこし長いスパンで自分の体や競技力と向き合うことができ、ベースの体づくりもしっかり行うことができています。

練習施設の閉鎖により、今までと同じ環境での練習ができなくなってしまったという影響もありますが、工夫をして同じように練習ができるように努めています。

私はこの状況を自分にとっての追い風であると考えています。この追い風に乗ってチャンスを掴みたいと思っています。

モチベーションを保つには

スポーツ選手としてのモチベーションは、何より「楽しむ」ことです。次の大会が定まらない、ピークが合わせられないなど、問題はいくつもあります。

私は大会の為に走っている訳ではありません。走ることが楽しいから、走ることで人生が変わったから、もっと楽しみたいから、走り続けています。大会はその先のご褒美です！

しかし、大会は意識します。勝ちたいからです。一番になりたいからです。勝って一番になると、何倍も楽しいし、また人生が変わるかもしれないから。

テンションの低い日も、スイッチが入らない日も、へこむ時もあります。でも、それも走ることの楽しさなんだと思います。どうしようもない時は、テンションが高い、楽しそうな人をみつけて、元気を吸い取りに行きます。それが今は練習仲間だったり、家族だったりします。みんなに助けられながら、これからもスポーツを楽しんでいきます。

新しい試みとして

後輩のアドバイザー事業を行うようになりました。今まで（一社）ソシオSOEJIMAで選手活動していた育成選手が、企業へ雇用され、スポーツを仕事として頑張っています。パラアスリート雇用です。ソシオSOEJIMAを卒業した木村勇聖選手（LINE株式会社所属）と、私の前職場のシーズアスリート所属の城間圭亮選手。この2選手とアドバイザーとして契約し、トレーニングメニューや体調管理を行っています。

今は、給与と別に選手の活動費をサポートしている企業様もあります。（私の時代では考えられない事ですが・笑）パラスポーツも進化しています。

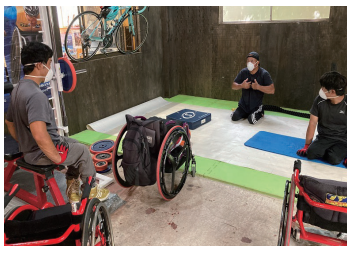
障害のある子どもたちへのサポート

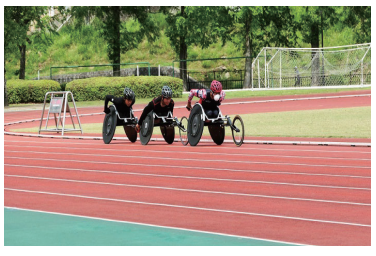
ソシオSOEJIMAは、パートナー企業様と一緒に、障害のある子どもたちが気軽にスポーツにチャレンジできるように、体験会の開催・車いす陸上教室・ワークショップなども行っています。

しかし、3月以降、新型コロナウイルスの影響で体験会や教室が開催できない状況です。今まで教室にきていた子どもたちも、スポーツを楽しむことができない状況にあります。

現在、これを何とかしたいと思い、オンラインで何かできないかと考えています。子供たちへの競技用車いす及び室内用車いす陸上練習機の貸し出しを行い、同じ時間にオンラインを用いて練習する。場所は離れていますが、みんなが頑張る時間を共有する。

そんな仕組みを作り、今後も障がいのある子どもたちがスポーツをできるようにサポートしていきたいと思っています。





副島 正純氏

パラリンピック銅メダリスト
パラリンピック（アテネ、北京、ロンドン、リオデジャネイロ）4大会連続出場
「ソシオSOEJIMA」代表

1970年生まれ。
23歳の時、家業である鉄工所の作業中、鉄板落下の事故により脊髄を損傷し車いすの生活となる。入院中に障がい者スポーツと出会い、スポーツの楽しさに魅了され、車いすマラソンを開始。2000年から、世界トップレベルを目指し、本格的に競技活動を開始。
2007年からは毎年ワールドメジャーマラソン大会に出場し、東京マラソン、ボストンマラソン、ニューヨークシティマラソン、ベルリンマラソンなどの多くのマラソン大会で優勝している。
2014年には、自身も世界トップアスリートとして活動しながら、一般社団法人を立ち上げ、車いすの子ども達が世界レベルの競技者を目指せるような環境の提供と指導を行い、子ども達の車いすアスリートへのチャレンジをサポートしている。
また競技以外にも、講演会の講師や車いすマラソン大会のレースディレクターとしても活躍中。

一般社団法人ウィルチェアアスリートクラブ
ソシオ SOEJIMA

ソシオSOEJIMAは、現役パラアスリートの副島正純選手が子ども達、若い選手の競技力の指導を行い、企業様・個人会員様には組織の運営をサポートして頂き、皆様と一緒に障害を持った子どもたちのスポーツへのチャレンジをサポートしています。

「ソシオ」とは、スペイン語で「仲間、パートナー」という意味を持っています。
その言葉のように、ソシオSOEJIMAは、選手もサポートしてくださるパートナー様も、みんながひとつになり、スポーツを楽しみ、ともに感動し、ともにチャレンジし、ともに成長していく団体です。
https://sociosoejima.com/

株式会社オオスミはソシオSOEJIMAを通じて
副島正純選手を応援しています。

MESSAGE

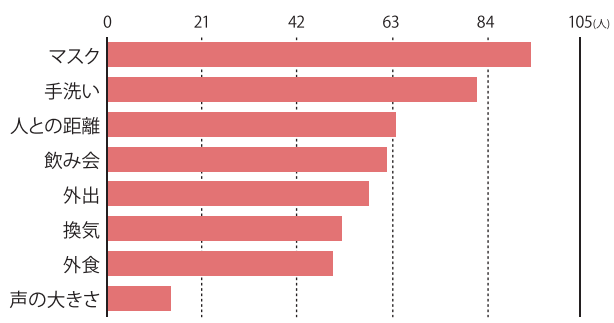
オオスミの進化

変化に負けない会社づくり・その1

アンケート

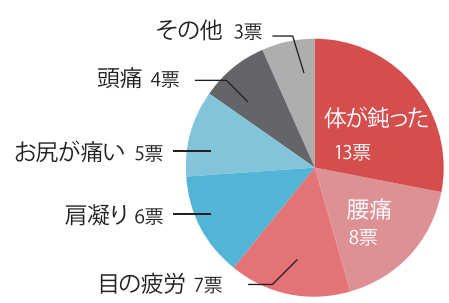
ウィズコロナ時代 社員に聞いたあなたの「変化」

Q1 コロナ対策で気にするようになったことは？



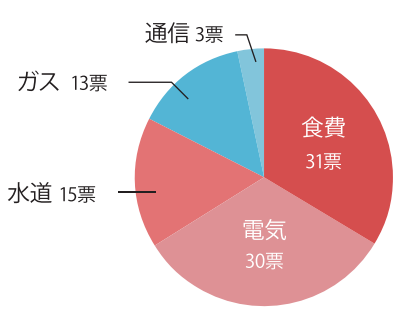
関心度が高いマスクは、ゴムが切れた時のストックや、持ってない人のためなど複数枚持ち歩いている人も！

Q2 在宅勤務中の困った体の変化は？



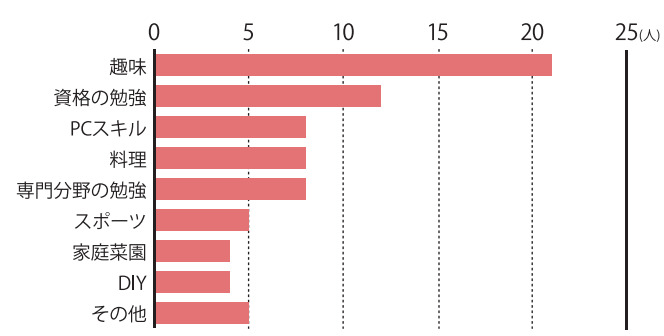
在宅勤務を経験した社員のうち、約30%が身体的に困ったことがあったようです。

Q3 緊急事態宣言中で増えた生活費は？



食費と電気代が増えていたようです。節電して省エネを意識付けるチャンスかもしれません。

Q4 新しく始めたことは？

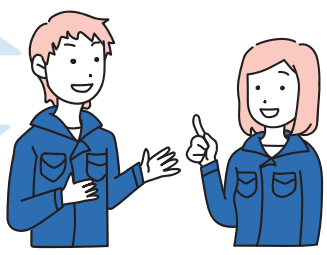


趣味を見つけた人が最も多い結果となりました。資格の勉強など、全体的に在宅時間を有効活用しているようです。

Q5 在宅勤務と休憩時間を明確に切り分けるために行っていたことは？

決まった時間に休憩を取るようにしました。

家族と過ごすリビングには仕事を持ち込まず、「行ってきます、ただいま」と出入りしました。



集中するための仕事部屋を決め、余計な情報が目や耳に入ってこない環境を整えました。

勤務時間は会社のポロシャツを着て作業しました。

まとめ

おうち時間が増加し、今までにない問題や新たな挑戦など、生活の中での多くの“変化”がみられる結果になりました。今後もおうち時間を過ごしていく中、節電や換気を気にする方は右ページの有資格者の知恵袋もぜひご参考にしてください！

キーパーソンに聞く　今後の企業にもとめられるもの

環境と経済活動の共存

専務取締役
東京支店長
鈴木 典子

企画開発室長
高橋 正一

営業グループ長
藤林 健志

2020年前半、感染症予防のために経済活動が変化したことで「都市型河川の濁りが減り、水中の生き物を目にする機会が増えた」「都会で野生動物に出会った」といった現象が世界中で報告されました。図らずとも経済活動が環境へ与える影響について見つめなおす機会にもなったことと思います。当社のキーパーソン3人に経済活動と環境との共存について考えを聞きました。

藤林：健康と安全な生活は、健全な地球環境によって支えられています。ところが、経済活動のグローバリゼーションによって加速される気候危機や森林破壊が生態系を混乱させ、未知のウイルスが発生・蔓延し、感染症のリスクを高めています。

事実、今年は世界的パンデミックが起こり経済活動は停止状態になりました。その事により皮肉にも環境には好影響を与えたようです。

鈴木：ロックダウンにより、世界の各所で大気汚染が改善され、CO_2の排出量が減少したようです。世界最大の大気汚染に苦しんでいたインドも、今年4月のNASA（米国航空宇宙局）の観測によると、この20年間で最も大気中の汚染物質が減少したとの事。確かに日本も緊急事態宣言後は車も少なく、お正月のような空気だったような気がします。地球もほっと一息をつけたのではないかな、という気がしました。

高橋：コロナとは関係ありませんが最近、茨城県沖で油田が発見されたという話題が、紙面を賑わしました。技術的、コスト的観点からその利用可能性について論じる記事は多く見られますが、本質的な問題に踏み込んでいる記事は見当たりません。

地球温暖化による影響が顕在化している現在、脱炭素が喫緊の課題となっています。ところが地球上に埋蔵されている化石燃料を全て燃焼すると、パリ協定で掲げた「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より低く保ち、1.5℃に抑える」という目標を超えると言われています。そのため化石燃料は、持続不可能な座礁資産(投資回収が不可能な資産）として、投資家によるダイベストメント(投資撤退)の動きが加速しています。日本人は、目先の持続不可能な資源の出現に、浮かれている場合ではありません。

オオスミの進化

変化に負けない会社づくり・その2

変化と共存するための問題解決

有資格者の知恵袋

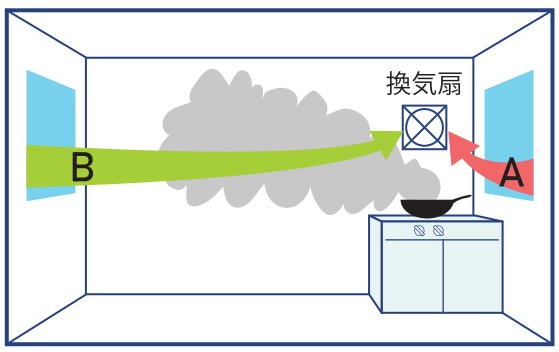
テレワークを経験したオオスミ従業員においては、換気や光熱水費、身体的な負担軽減への関心が高まっているようです。テレワークをより快適に実施するために、有資格者からのアドバイスを紹介します。

換気をもっと効率よく

野田 耕司
作業環境測定士

換気をうまく行うために重要なのは、空気の流れを考えることです。このとき、ショートサーキットという現象に注意する必要があります。

テレワークでできた時間を活用すべく、慣れない手つきで料理したものの見事に失敗し、換気扇も動かし忘れ、煙が充満した部屋の様子です。右と左に窓がある場合、換気扇を使ってより良く換気するには、どちらの窓を開けるのが良いでしょうか。



空気の流れは左の絵のようになります。

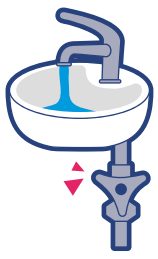
A の場合は、右側の窓から入った空気は窓からすぐに換気扇に向けて流れ、部屋の煙をほとんど排出できません。これが空気に近道をする性質がある為に起こる「換気のショートサーキット」です。

B の場合は、左側の窓から入った空気により、部屋の中央付近の空気が換気扇に向かい排出されるので、A より適した方法です。

このように、換気する時は空気の入口と出口を確認して、全体的に空気が入れ換わるようにしましょう。新鮮な空気の気持ち良さを知って頂き、健康かつ快適に過ごして頂ければと思います。

水と電力の上手な使い方

山家 亨　エネルギー管理士

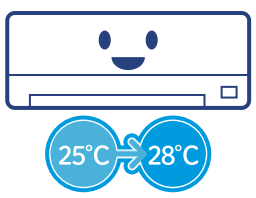


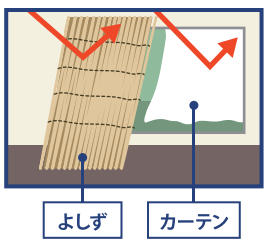
私たちが使用する水には、必要な水以外に垂れ流される水があります。洗面台の水が勢いよく跳ねる場合は、止水弁の開度を調節することで貴重な水資源を節約できます。

エアコンは仕組みを理解して上手に運用することが大切です。例えば、夏の設定温度を不快にならない範囲で少し高めにすると、全力運転の時間が短縮され、節電に繋がります。

窓から侵入する日射の影響を受けるため、カーテンやよしずで日射を遮ることで省エネ効果が得られます。

在宅勤務では、インフラを上手に使って生活の質を高めることが、より効率的な業務遂行に繋がります。





パソコン作業時の疲労軽減

波多野 敦　作業環境測定士

在宅勤務で、自宅でパソコンを使用することが増えてきました。目が疲れたり、足がしびれたり、そういった経験ありませんでしょうか？

パソコン等を使用するときの疲労を低減する「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」が、厚生労働省から発表されているので、ご参考になさってみてはいかがでしょうか？

- 連続作業時間は1時間を超えないようにする
- 作業と作業の間に10分~15分の休止時間を設ける
- 作業時間内において、1~2回程度小休止を設ける

- ディスプレイの画面上端が、眼の高さとほぼ同じかやや下になる高さにする
- 約 40cm の視距離を確保する

鈴木：アフター・コロナに私たちは環境と経済の共存状態を作っていけるか？ということについては色々な意見があるかと思いますが、「基本的には小さな地域の中で経済を回していき、大都市圏、中都市圏、小規模地域が必要に応じて接触しあう」という形が理想なのではないかと私は考えます。「生活の場と仕事の場を分断させない事が環境を自分事として考え、守ることにつながる」のではないでしょうか。サプライチェーン、グローバル化が意外と脆い事がわかった今、地産地消、地域分散型というキーワードで新しい社会を作っていきたいものです。

藤林：ネット社会が到来した2000年代初頭を「第一次ニュー・ノーマル」と呼び、デジタル通信が社会基盤として普及し、生活や仕事の中心となりました。「第二のニュー・ノーマル」は、2008～2009年に世界を席巻したリーマン・ショック後の経済・社会であり、金融資本主義の構造的な問題への痛烈な反省を世界中の人たちが感じ、それは広くエシカル（倫理的、道徳的）な消費へと向かい、企業活動の社会的責任（CSR、SDGsなど）が問われるようになりました。

そして、「第三のニュー・ノーマル」は、ウィズ・コロナ、アフター・コロナの世界です。経済の停滞・縮小が起きましたが、一方で対策を通じて新たに起こった、在宅勤務、時差通勤、遠隔会議などの経済活動・日常生活の変化は、環境負荷の少ない経済活動・ライフスタイル・ワークスタイルの導入につながる面もあります。そのためには、できるだけ新しい技術を生かしながら、モノやサービスの利用に伴うライフサイクルにわたる省エネ・省資源化を図る自立・分散型の地域循環共生圏を作り、質の高い暮らしを実現する経済システムへの転換が必要です。

高橋：日本は森林資源が豊富な国です。これらは立派なバイオマスとして利用できるはずなのですが、実際には価格面で勝る外国産の木材チップが多く使われています。日本国内においては森林が山中にあることが多く、木材の切り出し、搬出に手間が掛かることや、林業従事者の高齢化等、安定供給という面で課題が残りますが、日本の林業を活性化し、荒れた森林に人の手が入れば、多くの生物を育む里山が復活するかも知れません。太陽光や風力を活用するテクノロジーと、昔ながらの燃料であるバイオマスを、上手く組み合わせることで、持続可能な社会が構築されることを願う今日この頃です。

人事の変化

2020年採用紀行

採用改革の収穫

POINT

2020年の採用活動は、3密を避けるべく過去に経験のないやり方で行わなければなりませんでした。日々変わる状況に困惑しながらも、何とかして一緒に働きたいと思う仲間を見つけ出すことに奔走しました。工夫とスピード感をもって対応し、2021年4月から一緒に働く仲間を見つけることができた採用活動の模様をお伝えします。

約1年かけて仲間を見つけます

ここが問題！

採用計画を立てる → 求人ナビの手配 HPの編集 学校訪問 説明会資料準備 → 説明会 → 選考 → 内定

何人採用する？ スケジュールは？

オオスミの良さ伝わるかな。。

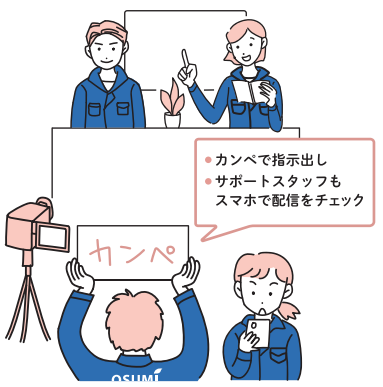
WEB配信できるかな。。

学生さんも不安だよな。

01 熱い想いを伝える！

説明会は、WEB 配信に切り替えました。社員の雰囲気や、会社の使命を伝えられるよう、録画したものを流さずに、リアルタイムで配信をしました。学生さんと同じ時間を共有することで気持ちを伝えることができたと思います。

説明後の質疑応答はメールで行いました。興味を持ってくれた学生さんに誠意をもって対応したいと、その日のうちに全てのメールに返信をしました。より学生さんとの距離を縮めることができました。



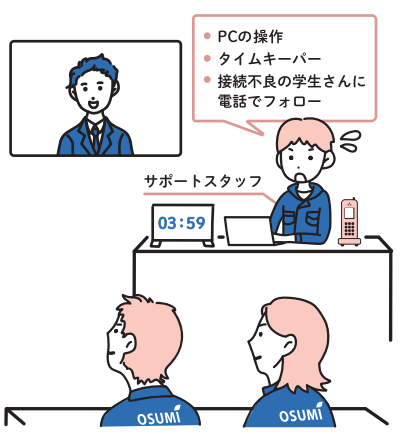
02 迅速に連絡！

企業の説明会や選考がいつ、どのような形式で開催されるのか不透明で、学生さんは不安だったと思います。少しでも不安が軽減されるように、小まめに連絡を入れました。

学生さんからは、「連絡のない企業もある中、オオスミは選考の準備をしていると分かり、安心しました。」といったお声をいただき、気持ちを引き寄せることができました。

03 面接は臨場感を持って！

面接は移動制限が設けられていない時期だったので、感染対策を施した対面式の面接か、WEB面接か、学生さんにどちらが良いか選んでもらいました。WEB面接では臨場感を持って挑めるように、学生さんの映像を大きなモニターに映し出しました。また、面接官以外にサポート役も配置しました。



2020年の採用を振り返って

WEBを駆使した採用でも工夫すれば多くの学生さんと出会い、仲間を見つけることができました。一方で、WEBでも社内の雰囲気をいかにして感じとってもらえるかが、課題だと思いました。

今後は動画等を使い、どんな環境で、どんな想いを持って働いているのかを伝えられるようにしたいと思います。初めの一歩として、分析室の様子を動画で見られるように、『ラボ見学』をアップすることを検討しています。

新しい採用方法を検討して、未来の「地球のドクター」を見つけ出していきたいです。

未来の仲間たちと対面

少しでも早く会社や社員の雰囲気を知ってもらえるよう、内定者懇談会を当初の予定から前倒しして開催しました。「入社が楽しみです！」と好評でした！

NEW!
オオスミ
リクルートムービー

新たな仲間のご紹介

安全に気を配る！

調査第一グループ
下村 駿太（しもむら しゅんた）

私は土壌調査を担当し、現場に出る機会が多い為、安全について強く意識するようになりました。現場では、重機が動いていたり、足場が悪かったりと、危険が潜んでいるので、状況をよく見て業務を遂行しなければなりません。事故を起こさないためにも、「これは危険ではないか？」と考えられるようになってきました。

まだまだ経験や知識が足りず、危険の予測ができないこともありますが、安全に気を配って仕事に邁進したいと思います。

先輩を目標に

調査第二グループ
竹本 純太（たけもと じゅんた）

私は社会人になって、細かいところにまで注意を払うようになったと感じます。現場でも事故が起きないように状況を確認し、作業中も周囲に目を向けるようにしています。学生の頃には、気にも留めずにいたことに注意を払えるようになりました。しかし、まだまだ未熟でミスも多く、あわや事故につながりそうな場面もありました。お客様にプロとしての仕事を提供できるよう、早く先輩方のように確実に素早く業務を行い、また事故を未然に防げるようになりたいと思います。

目指すは アスベストのプロ！

調査第三グループ
柴山 真司（しばやま しんじ）

入社してから一番成長したことは、アスベストや建材に関する知識が身についてきたことです。様々な現場に行き、アスベストの採取方法に関する知識・技術を日々習得しています。先輩に頼りながらも、今では外壁や天井などのサンプル採取が出来るようになりました。今後はとにかく現場に出て技術を身につけ、一人で案件を対応できるようになることはもちろんのこと、現場だけでなくアスベストの分析技術も身につけて、オールラウンドプレーヤーを目指します。

ベトナムに貢献

オオスミベトナム
NGUYEN VAN DUNG

ベトナムのダナンにある地元企業や日系企業に省エネルギーと環境保護に関する提案と対策を提供しています。オオスミの一員としての自覚を持ち、この業務を通じてベトナム社会に良い貢献が出来るように、自分自身を変革し成長していきたいと思います。自分自身を変えるには、知識、態度、目的が大切です。日々、知識を増やし、人、社会、国のために役立つ能力を発揮します。そして、感謝の気持ちと前向きな考え方で、お客様や仲間に良い価値を提供していきます。

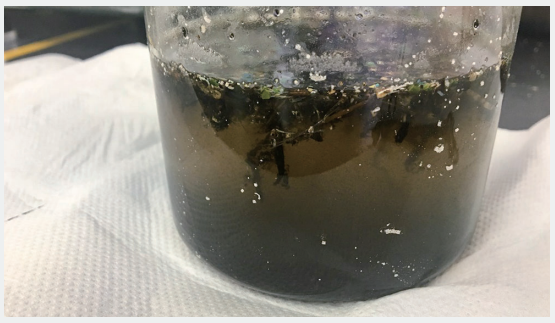
オオスミの使命

マイクロプラスチックの分析方法

近年、レジ袋の有料化など日本でもプラスチック問題への取り組みがより活発になってきました。中でも海洋汚染の原因となっている5mm以下の微小なプラスチック片である「マイクロプラスチック」に対する取り組みに注目が集まっています。

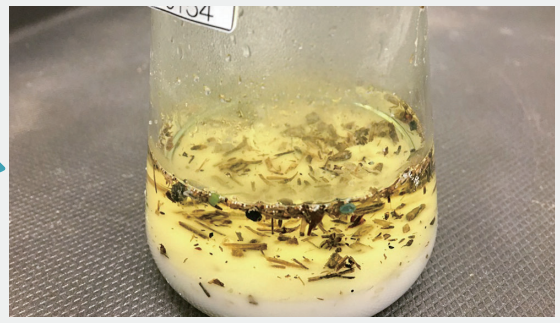
マイクロプラスチックは、多くの分析機関において様々な方法で分析が行われています。オオスミでもいくつかのマイクロプラスチックの分析方法に対応しており、その一例を紹介します。

01 比重分離



飽和食塩水にサンプルを入れ、サンプル中に含まれている比重の軽いプラスチックを浮かします。

02 酸加熱処理



酸を用いて、プラスチックの表面に付着した汚れを落とします。

03 ろ過、乾燥

プラスチックを試料液から分離し、乾燥させます。

04 ピッキング

ろ紙上のプラスチックを一つ一つ取り分け、分析機器で測定可能な状態にします。

05 測定

フーリエ変換赤外分光光度計(FT-IR)を用い、試料の赤外吸収スペクトルからプラスチックの種類を同定します。

オオスミの取り組み

マイクロプラスチックの原因の一部は、私たちの生活と密接した川から海へ流出したものです。その原因も現在判明しているだけで多岐にわたっていますが、それでもまだ未知の部分が多く存在します。現在この微小なプラスチックが海洋生物の体中でも発見されており、人間を含めた生物への有害性が懸念されています。

FT-IRによる分析ではプラスチックの種類を判別することが出来ます。オオスミでは100地点を超える国内外の海域や河川について分析を行ってきました。また、最小50μmまで測定可能な顕微FT-IRを用いて、生物の中に取り込まれた極めて微小なマイクロプラスチックの分析も行ってきました。

オオスミではこの分析技術を活用して、この世界規模の問題解決に取り組んでいきます。

環境教育・職場体験を通じて

次世代へのバトン

Baton for the Next generation

今後の社会を担う世代に環境問題の関心を高めてもらう

環境教育
地球環境を守る意識をより高めて欲しい

調査第二グループ
鮫島 憲一郎

2019年の秋、横浜市内のとある小学校6年生の先生から、「授業で省エネをテーマに学習しているが、省エネに繋がる行動を子供たちで考え、実行したところ上手くいかなかった。実際に仕事で省エネを行っている方にヒントをもらいたいので出前授業をしてもらえないか。」という問い合わせがありました。将来を担う子供達の環境意識を高め、自発的な行動を促すことが、私たちの使命である地球環境を守ることに繋がるという想いを持っていたことから、二つ返事で協力をさせていただくことにしました。

出前授業当日は、照明・エアコンの使い方の見直しや雨水の有効利用など、身近なところで実行可能なアイデアを紹介しました。発表後の質疑応答では多くの質問が出て、子供たちの環境への意識が高いことを実感することが出来ました。

今回の出前授業をきっかけに、子供たちが省エネやCO_2削減、ひいては地球環境を守る意識をより高めてくれることを願っています。

職場体験
目を輝かせる子ども達から得たこと

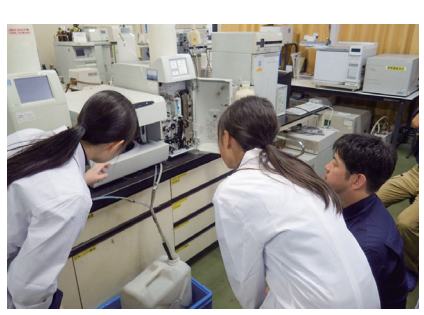
営業グループ
望木 修一

2019年に地域貢献と環境教育を目的とし、近隣中学校と協力して「中学生の職場体験」を行いました。オオスミの業務である環境調査・分析を通じて、将来を担う子供たちの「環境意識の向上」と「自発的行動」のキッカケになればと思い、取り組みを始めました。

初めての挑戦であったため、オオスミ社員の家族に協力してもらい、体験中に考えられる「危険」の洗い出しや体験内容の確認等のために、プレ職場体験を行いました。

実際の職場体験では子供たちが川から水を採取したり、見たことのない分析機器に触れたり、また学校の顕微鏡よりも更に小さい物が観察できる電子顕微鏡に目を輝かせて操作していました。私たちも生徒を受け入れる経験は初めてだったので、全てが新鮮でした。また、ジッと目を見て話を聞く子供たちの姿勢を見ると改めて普段の自分を正すキッカケになりました。

今年はコロナウィルスの影響により、学校・企業の安全面から職場体験は見送りとなりましたが、来年以降も引き続き行っていきたいと思っています。



NEWS オオスミニュース

オオスミ環境Webinarを始動

オオスミでは近年、経験豊富な技術者によるセミナーに力を入れています。2020年5月からはオンライン形式のウェビナーを始め、8月までに延べ7回のプログラムを開催しました。参加者の多かったプログラムは、1位「不動産取引に関わる環境リスク（土壌汚染・アスベスト・PCB）」、2位「残土調査の基礎」、3位「アスベスト対策」です。

初めは、ツールの使い方や講師の話すスピードなど試行錯誤しながらの挑戦でしたが、チャット機能を使った「Q&A」では、対面形式よりも多くの質問が寄せられ、参加者アンケートでは、「わかりやすかった」「動画も配信してほしい」「石綿については自分で勉強していたが、今回のセミナーで理解が深まった」「資料は若手の教育用として活用したい」などの声が寄せられ、対面形式にも劣らない盛況ぶりに驚いています。

今後は、法改正で関心が高まっている「アスベスト対策」の継続開催や処理期限の迫っている「PCB廃棄物対策」を予定しています。ぜひ一度ご参加ください。

アスベスト関係法令が改正

アスベスト関係法令である大気汚染防止法（環境省）、労働安全衛生法、石綿障害予防規則（厚生労働省）の改正に伴い、中間とりまとめが公表されました。今後変更となる可能性もありますが、アスベスト含有建材（レベル3建材）を含む、アスベストが使用されている全ての建物の解体や改修時に、事前調査が義務付けられる等、対策が強化されます。

改正された大気汚染防止法は、一定の期間（1年程度）を経て別途定める日（未定）に施行されます。また、石綿障害予防規則は、2020年7月1日に公布され、段階的に施行される予定です。

今回の主な改正は、アスベスト調査者が限定される事、各種の届出要件が厳しくなる事が挙げられます。

【調査者の条件】
1. 建築物石綿含有建材調査者
「特定・一般・戸建（新規）」
2. 1と同等の能力が認められる者
（日本アスベスト調査診断協会に登録された者等）

【届出要件】※電子申請が必要
1. 解体：延床面積80m^{2}以上、請負金額100万円以上の特定の工作物（煙突、発電設備等）
2. 改修：請負金額100万円以上

これにより、解体は延床面積80m^{2}以上の戸建住宅も対象で、改修の場合、浴室やトイレ、キッチン等の改修で請負金額100万円を超えるものは届出の対象となります。特にレベル3（成形板等）は、現状の条例による規制から法規制に変更され、届出を行わないと工事ができなくなります。

今後解体によって調査者、解体業者、周辺住民がアスベストの被害を受けないよう、細心の注意をする必要があります。

こうした状況を受けてオオスミでは、アスベストの調査体制を強化しております。お困りごとがございましたら、是非お問合せ下さい。

溶接ヒュームが規制されます

金属アーク溶接等作業から発生する溶接ヒュームについて、労働者への健康障害のリスクが高いと認められたことから、労働安全衛生法施行令、特定化学物質障害予防規則等が改正されました。改正政省令・告示は、令和3年4月1日から施行・適用され、一部に経過措置（猶予期間）が設けられます。

段階的ではありますが、「金属アーク溶接等作業を行う屋内作業場において、個人サンプラーを用いた溶接ヒュームの濃度の測定」、「全体換気の実施」、「特殊健康診断の実施」、「測定結果から要求防護係数を算出と呼吸用保護具の選択」、「測定結果により、換気風量の増加その他必要な措置の実施」、「フィットテストの実施」、「特定化学物質作業主任者の選任」などが義務付けられます。

「溶接ヒュームの規制について、どのような対応をすれば良いのか分からない」、「どのように測定を行えば良いか分からない」などございましたら、是非お問合せ下さい。

＜溶接ヒューム＞
金属アーク溶接等作業（金属をアーク溶接する作業、アークを用いて金属を溶断し、またはガウジングする作業、その他の溶接ヒュームを製造し、または取り扱う作業）において加熱により発生する粒子状物質

SDGs への取り組み

Our Mission

私たちは地球に暮らす人々に『安全』と『安心』を環境面から提供しつづけます

私たちは、SDGsをMissionを果たすための中間指標とし、全社員で目標を定め、オオスミの強みを活かすことで、持続可能な環境や社会の構築に貢献します。

2020年6月、オオスミは内閣府の「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に登録されました！

※SDGsとは：2030年までに世界が取り組む17の目標と169のターゲットから成る持続可能な開発目標です。

私たち「地球のドクター」の仕事

企画提案・セミナー・コンサル → 調査・測定・分析 → 対策・工事・販売

A	環境保全事業	水、土壌、大気、騒音・振動、アスベスト、PCB マイクロプラスチックなど
B	労働安全衛生型環境事業	作業環境測定、個人暴露測定など
C	エネルギーソリューション	地球温暖化対策、省エネ診断など
D	製品・材料試験事業	材料・異物分析、受託・研究、ゆあらぼ、こらぼなど
E	環境関連商品等販売事業	化学工業薬品、環境関連商品、省エネ対策商品など

地球のドクター メッセージムービー

すべての事業分野における膨大なソリューション。これはオオスミが培ってきた強みです。

株式会社オオスミ

本社
〒246-0008 横浜市瀬谷区五貫目町20-17
TEL 045-924-1050

東京支店
〒101-0064 千代田区神田猿楽町2-1-14 A&Xビル 5F
TEL 03-3219-5021

ゼロ・クロニクル2号発行！

夏至・冬至の年2回発行

オオスミでは、『日本の脱・プラとゼロ・ウエイストに貢献したい』との想いで、環境マガジンZERO CHRONICLEを2019年の夏至に創刊しました。

編集後記

社会が急変していくなかで作成したイヤーブックです。身の周りの変化を思い出しながら、オオスミの変化を感じていただけたら嬉しいです。

（編集委員一同）

？オースマイルって？

O-smile は造語ですが、分解すると『O』と『smile』に分けられます。
この『O』は株式会社オオスミの頭文字。『smile』は字のごとく笑顔です。O の smile、つまり私たちオオスミで働く人間は、常に心に笑顔を持っていたいと願う心からこのような名前にしました。